

知事訪米の概要 (平成29年1月～2月)

平成28年度
沖縄県知事公室

—目次—

1	訪米概要	1
2	訪米日程	3
3	訪米団員名簿	4
4	活動の概要	
(1)	ジョージ・ワシントン大学テキスタイルミュージアム訪問	5
(2)	連邦議会調査局との面談	5
(3)	コリーン・ハナブサ下院議員面談	9
(4)	ステファニー・マーフィー下院議員面談	9
(5)	アミ・ベラ下院議員面談	9
(6)	デイビッド・プライス下院議員面談	9
(7)	ダッチ・ラッパーズバーガー下院議員面談	10
(8)	デイビッド・クストフ下院議員面談	10
(9)	スコット・ピーターズ下院議員面談	10
(10)	デイビッド・バラデオ下院議員面談	11
(11)	議員面談後の知事のぶら下がり取材対応	11
(12)	有識者との面談	15
(13)	沖縄コレクション公開セミナー講演	15
(14)	スコット・テイラー下院議員面談	28
(15)	マット・ゲーツ下院議員面談	28
(16)	エヴァン・ジェンキンス下院議員面談	28
(17)	スティーブ・ウォーマック下院議員面談	29
(18)	議員面談後の知事のぶら下がり取材対応	29
(19)	沖縄コレクションワークショップ開始時挨拶	32
(20)	マイク・ドイル下院議員面談	32
(21)	議員面談について	33
(22)	連邦政府要人面談	33
(23)	佐々江駐米大使表敬訪問	34
(24)	記者会見	34

1 訪米概要

(1) 目的

戦後71年を経た今もなお、国土面積約0.6パーセントの沖縄県に、米軍専用施設面積の70.6パーセントが存在し、沖縄には過重な負担が続いている。

今回、知事自身が訪米し、米国政府要人、連邦議員等と面談し、辺野古新基地建設に反対する県民世論及びそれを踏まえた建設阻止に向けた考えを伝え、米国側の理解と協力を促す。

昨年12月に不作為の違法確認訴訟の最高裁判決が示されたが、引き続き辺野古新基地建設に反対していく県の姿勢を訴えることが重要な時期である。

また、1月20日の米国新大統領就任式後、新政権における政策が形成されていく時期に訪米し、連邦議会議員、シンクタンク等有識者などに沖縄県の考えを的確に伝えることは効果的である。

今回訪米に併せて、ジョージ・ワシントン大学における「沖縄コレクション」関連イベントとして公開セミナーを開催し、学生や沖縄に関心のある方々に対して、知事が沖縄の基地問題」について、富川政策参与が「沖縄経済の将来とアジア～脱米軍基地依存の展望～」について講演を行う。

(2) 活動内容

ア 面談（計31名）

議会調査局インタビュー 11名

連邦議会議員 13名（うち1名は補佐官対応）

有識者 2名

連邦政府 5名

イ 講演

沖縄コレクション公開セミナー（於：ジョージ・ワシントン大学）

ウ 記者会見

ナショナルプレスクラブ

エ 内外マスコミ対応

※ 上記の他、知事はナショナルプレイヤーブラックファーストに出席した。

(3) 日程

平成29年1月30日（月）～2月5日（日）

(4) 訪米団員

知事、知事秘書、通訳、政策参与、知事公室長、知事公室職員

合計10名

2 訪米日程

日本時間			米国時間			訪米日程
月日	曜日	時間	月日	曜日	時間	
1/30	月	15:45				出発式（那覇空港）
1/31	火	10:40				成田空港発
			【以下 米国東部標準時間(EST) 日本との時差 マイナス14時間】			
		23:15	1/31	火	9:15	ダレス空港着
2/1	水	1:15			11:15	ジョージ・ワシントン大学テキスタイルミュージアム訪問 （紅型展お礼）
		4:00			14:00	連邦議会調査局との面談
		23:30	2/1	水	9:30	コリーン・ハナフサ下院議員（ハワイ州選出、民王党） ステファニー・マーフィー下院議員（フロリダ州選出、民主党） アミ・ベラ下院議員（カリフォルニア州選出、民主党） ディビッド・プライス下院議員（ノースカロライナ州選出、民主党） ダッチ・ラッパーズバーガー下院議員（メリーランド州選出、民主党） ディビッド・クストフ下院議員（テネシー州選出、共和党） （クストフ議員は別日程のため補佐官対応） スコット・ピーターズ下院議員（カリフォルニア州選出、民主党） ディビッド・バラデオ下院議員（カリフォルニア州選出、共和党） 有識者との面談
2/2	木	20:30	2/2	木	6:30	ナショナルプレイヤーブラックファースト
2/3	金	1:30			11:30	GW沖縄コレクション公開セミナー（知事スピーチ）
		4:00			14:00	スコット・テイラー下院議員（バージニア州選出、共和党） マット・ゲーツ下院議員（フロリダ州選出、共和党） エヴァン・ジェンキンス下院議員（ウエストバージニア州選出、共和党） スティーブ・ウォーマック下院議員（アーカンソー州選出、共和党）
		0:00	2/3	金	10:00	沖縄コレクション ワークショップ（知事挨拶）
		1:00			11:00	マイケル・ドイル下院議員（ペンシルバニア州選出、民主党）
2/4	土	5:15			15:15	国務省ジョセフ・ヤング日本部長及び国防総省ポール・ヴォステイ 日本部長代行等と面談
		6:00			16:00	日本大使館 佐々江大使表敬訪問
		7:00			17:00	ナショナルプレスクラブ記者会見
			2/4	土		
2/5	日	0:55			10:55	ダレス空港発
			【以下 日本時間】			
		15:15				成田空港着
		18:15				成田空港発
		21:30				那覇空港着

3 団員名簿

No.	氏名 Name	職名 Position	担当業務
1	翁長 雄志 Takeshi Onaga	沖縄県知事 Governor	
2	謝花 喜一郎 Kiichiro Jahana	沖縄県知事公室 知事公室長 Director General, Executive Office of the Governor	事務・総括
3	岸本 義一郎 Yoshiichiro Kishimoto	知事特別秘書 Governor's Secretary	知事秘書
4	運天 修 Osamu Unten	参事兼基地対策課長 Councilor and Director, Military Base Affairs Division	事務・広報
5	阿波連 貴夫 Takao Aharen	秘書課主査 Supervisor, Secretary Division	通訳
6	仲西 昌人 Masato Nakanishi	基地対策課主査 Supervisor, Military Base Affairs Division	記録・庶務
7	川満 健太郎 Kentaro Kawamitsu	辺野古新基地建設問題対策課 Senior Staff, Henoko Base Construction Countermeasures Division	記録・庶務

【沖縄コレクション関連イベント対応】

8	富川 盛武 Moritake Tomikawa	沖縄県政策参与 Policy Advisor	
9	金城 信尚 Nobuhisa Kinjyo	基地対策課調査班長 Section Chief, Military Base Affairs Division	沖縄コレクション関連イベント
10	大城 健 Takeru Ooshiro	基地対策課主任 Senior Staff, Military Base Affairs Division	沖縄コレクション関連イベント

4 活動の概要

(1) ジョージ・ワシントン大学テキスタイルミュージアム訪問

ア 日時：平成29年1月31日 11:15頃～

イ 概要：ジョージ・ワシントン大学博物館・テキスタイル博物館を訪問し、紅型展「BINGATA! Only in Okinawa」の開催（平成28年11月4日～平成29年1月30日）に尽力いただいたジョン・ウェーテンホール館長及びリー・タルボット学芸員に謝意を伝え、展示状況及び撤収作業の視察を行った。

(2) 連邦議会調査局との面談

ア 日時：平成29年1月31日 14:00頃～

イ 相手方：連邦議会調査局職員及び連邦議会議員補佐官

ウ 概要：出席者、内容について非公表とするとの前提で行われた。

翁長知事からは、日米安全保障体制に対する沖縄県の考え方、沖縄の過重な基地負担の状況、辺野古新基地建設に関する沖縄県の考え方などについて説明を行った。

特に、平成27年12月に不作為の違法確認訴訟の最高裁判決が示されたが、これは、数ある知事権限の一つについて判断が示されたにすぎないこと、類似の事業をみると今後設計変更等も数多く見込まれること、県としては引き続き辺野古新基地建設に反対であること等を説明した。

エ 連邦議会調査局等との面談後の知事ぶら下がり取材対応

(記者)

知事、どんな方々と面談されて、どんな方々とお話されたかといったことについて

(知事)

はい。議会調査局のメンバー。これ、1回目も2回目も5、6、7、8名くらいでしたけれども、大変議員に対して影響が大きいメンバーとそれから補佐官ですね。こういう方々がおいでになって、休憩時間を入れると2時間くらいですか、議論をしまいました。向こう側からのお願いが一つありましたので、向こうの発言等はオフレコにしてもらいたいということでもありますので、私が申し上げたことだけをお話を簡単にして、後、質問があればお答えしたいと思います。

訪米の目的というようなことをですね、2年前と去年と今年とで環境が違いますので、特に最高裁の判決については、米国でも誤解があるかもしれませんということで、

日頃私が申し上げているように、元に戻るだけであって、これから以降の設計変更等々は、客観的にしっかりと権限を活かさせてもらいますよと。まあ、岩国の例を捉えながら、8回も変更申請を出ているようですから、私からするとしっかりと工事をしてもらうためにも県はこういう対応をしますと。しかし普通にいっても10年かかるんですが、今のような県民の7割、8割が反対している状況の中では、おそらくは15年、20年と行くんじゃないでしょうかというような話をさせてもらいました。

後、いろいろ質問もあつたりして答えたこともあるんですが、それは、今出てきてすぐですので、もし、皆さん方から御質問があつたら、そういえばそういうこともあつたねと話をさせてもらえれば良いのですが、よろしく願います。

(記者)

知事としては、出席された方々にどんな形で、その知事が伝えたことを反映して欲しいというか、そのレポートだったりなのか・・・

(知事)

そうですね。3回目の方もおられるのでね、今まで話をしてきた、例えば沖縄の歴史、サンフランシスコの講和条約、沖縄県民は一度たりとも自ら土地を手放したことはないというようなこと等も2度ほど聞いている方もいますし、初めての方もいるんですね。ですからそういったところは簡単な説明をして通り過ぎていったりしてですね、全体的にバランスがとれる、その意味でのバランスですね。1回目の人、2回目の人、3回目の人。そういったバランスもとりつつ、何を強く訴えたかと言いますと、今申し上げたように、いわゆる裁判で負けたから、もう合意が成り立って順調に工事が進むんでしょうねと、こういうようなもののお話を、もし皆さん方が。中央のメディアとかそこら辺りから情報は聞くけれども沖縄からなかなかないという話がありましたので、そういう意味では今から私が申し上げることが私たちからすると本物だと思いますよということで、先ほど話したことをして、10年ではききませんよと、お金も1兆円じゃききませんよと、こういった中で安全保障を語るのはいかがなものかなと。それから沖縄が抑止力で大変地政学的にもいいという件でも、それは20年、30年前の話であって、今は北朝鮮、中国からはミサイルが。もう中国はものの本によると、300発沖縄に向いているということからすると、今、米軍人、軍属5万人もいるわけですから、おそらく1分くらいで届くはずですから、そういった意味でも、もう沖縄がそういったことを担うということについては、ジョセフ・ナイさんがおっしゃっているように、一つのカゴに卵をたくさん詰めると割れてしまいますよというようなことも考えていただきたいというような話をしました。

(記者)

知事、今回は最高裁の判決が出ててもですね、知事の権限などでですね、造ることは難しいぞということをお伝えしたと思うんですが、知事として皆さん今日聞いてらっしゃった方がですね、この辺野古問題というのは、先に進まない、難しいというふうに実感を向こう側が受けたかどうか、どのように知事として実感して・・・

(知事)

みんな慎重な顔をしておりましたので、頷いたりもしますし、これで相手の状況がどうだということまでは行きませんが、いずれにしてもずっと耳を傾けてくれたという意味からすると、相当この問題は、私たちの意見も聴いてそれから判断したいという、まあ、今日お会いしたのは議員とは違いますので、おそらくこれからいろいろ書いて上にあげると思っていますので、こういったこと等に期待をしたいなと思っています。

(記者)

理解は得られたと、知事の権限なども。

(知事)

私はそう思いたいですけど、人の心の中までは見えませんのでそう思いたいし、そのような感じでしたとも言いたいですけど、それはあくまでも私の主観になりますから、そうだったとは言えません。

(記者)

後ですね、聞いている方々からどのような質問というかですね、どういった部分が向こうは理解がまだできていないかその辺が・・・

(知事)

ここがね、オフレコだという話なんですよ。だから私が何を言ったというのはいいけれども、私たちが何を質問したり何を私が援助したとか、そういうのは言わないでくれというのが最初の言葉でしたので、これは残念ながら、これを1回破りますと二度とこちらに来れなくなりますので、これは御理解いただきたいと思います。

(記者)

あの質問の具体的な内容は言えないということなんですけれども、その質問の内容等を聞いてですね、知事がどういうふうに・・・

(知事)

私が言ったことがだいたいそういうふうにしたということを大まかに考えていただければいいのかなと思います。

(記者)

知事、すみません。今の話とちよっとかぶるんですけども、逆に最高裁の判決が出たから、この問題は終わったんじゃないのかというような雰囲気とかニュアンスというのは感じ取れましたでしょうか。

(知事)

はい。これをここに来る前からそういったような情報がこちらの方にいっているというような話を聞いていますので。こちら側からも当然、ワシントン事務所にいるメンバーがそれなりに訪ねて歩いてですね、パンフレットを渡したり何したりで私の言葉も伝えておりますから。ただやっぱり、圧倒的に日本大使館から発する情報と私どもの方が発する情報というのは差があると思いますから、今日はそういったことを想定しつつ話をさせてもらいました。

(記者)

知事、確認ですけれども、出席されたのは議会調査局の연구원と議員の補佐官の方々ということですか、何名。

(知事)

あんまり言うと、僕がもう一回こちらに来てお話ししようということになりませんのでね。

(記者)

知事としては、今後の調査局の報告書にこういった内容を反映させてほしいというようなことは頼まれたんでしょうか。

(知事)

いえ、そういう立場ですから頼まなくても書くと思います。彼らは自分の意見は言わないけれども、調査をして上にあげるということは初回の時からおっしゃってましたから、これは今日いったとか前回いったとかではなくて、初回で私たちは聞きますし、調査をして上にあげますということでしたので。

(3) コリーン・ハナブサ下院議員面談

- ア 日時：平成29年2月1日 9:30頃～
- イ 場所：キャノン議員会館 ハナブサ議員居室
- ウ 面談者：コリーン・ハナブサ下院議員及びスタッフ
- エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。
※ 具体的発言内容については非公表

(4) ステファニー・マーフィー下院議員面談

- ア 日時：平成29年2月1日 11:00頃～
- イ 場所：レイバーン議員会館 委員会室付近
- ウ 面談者：ステファニー・マーフィー下院議員及びスタッフ
- エ 概要：限られた時間での面談となった。知事と議員の間で挨拶、資料の提供、写真撮影が行われた。

(5) アミ・ベラ下院議員面談

- ア 日時：平成29年2月1日 11:30頃～
- イ 場所：ロングワース議員会館 ベラ議員居室
- ウ 面談者：アミ・ベラ下院議員及びスタッフ
- エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。
※ 具体的発言内容については非公表

(6) デイビッド・プライス下院議員面談

- ア 日時：平成29年2月1日 13:30頃～
- イ 場所：レイバーン議員会館 プライス議員居室
- ウ 面談者：デイビッド・プライス下院議員及びスタッフ
- エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につな

がる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(7) ダッチ・ラッパーズバーガー下院議員面談

ア 日時：平成29年2月1日 14:00頃～

イ 場所：レイバーン議員会館 ラッパーズバーガー議員居室

ウ 面談者：ダッチ・ラッパーズバーガー下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(8) デイビッド・クストフ下院議員面談

ア 日時：平成29年2月1日 15:20頃～

イ 場所：キャノン議員会館 クストフ議員居室

ウ 面談者：ジャスティン・メルビン補佐官

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(9) スコット・ピーターズ下院議員面談

ア 日時：平成29年2月1日 16:10頃～

イ 場所：ロングワース議員会館 ピーターズ議員居室

ウ 面談者：スコット・ピーターズ下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地

建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの
日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(10) デイビッド・バラデオ下院議員面談

ア 日時：平成29年2月1日 16:30頃～

イ 場所：ロングワース議員会館 バラデオ議員居室

ウ 面談者：デイビッド・バラデオ下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につな
がる辺野古新基地建設に反対であること、多くの県民が辺野古新基地建設
に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米
安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(11) 議員面談後の知事のぶら下がり取材対応

ア 日時：平成29年2月1日

イ 場所：ロングワース議員会館前

(記者)

知事、今日はどういう方とお会いになって、どういう話しをされたかというのと、
二日目、こうやってその所感をお願いできますか。

(翁長知事)

昨日は調査局、あるいはまた補佐官等のところで話しをしたのは記者会見もしまし
たね。で、今日は、8名の議員といろいろ意見交換ができました。今回3回目になる
わけですけども、1回目は、ほぼ多くの人が同じ文章を読み上げて辺野古唯一という
形で話しをするのが多かったわけです。

去年は、そういう言葉はなくなって、わりあいフリーに話しをする人が、多かった
状況になりまして、今回は特徴的なことは議論がございまして、長い人は1時間くら
いいろんなことを聞いてくれまして、そういった中での変わり方が今回あったなあ
というふうに思っております。

それと、もう一つは多くの議員の皆さん方が、やはりオフレコということでやっ
ておりますので、具体的に A さんがこういう話をしたとか、B さんがこうでしたとい
うことは申し上げられませんが、私からしたら、3回目の今回は大変実のある話
ができたなあというふうに思っております。

(記者)

知事の方からは、どんな話をされたんですか。

(翁長知事)

議員によって違うわけですが、なぜならば、時間が限られておりますので、大方のところでは申し上げますと、私の方からは、私自身は日米安保体制を理解しているということを前置きをする中で、0.6%に、70%はいくらなんでも多いじゃないかと、沖縄県民はその意味で日本全国でその問題を考えてもらいたいと思っていますと。

そして2点目は、新辺野古基地が海を埋め立ててできるんだということ、そしてその中で5,800の生物、262絶滅危惧種、そしてジュゴン等も厳しくなると、こういうような観光立県が海を埋め立ててこれからやっていくということは大変厳しいと、それから世界的にいても環境問題考えたらおかしいんじゃないかというような話を2点目にさせてもらいました。

3点目にはそういうことがあるから、私が当選をした、あるいはその前から名護市長選挙、知事選挙、衆議院選挙、参議院選挙、県議会議員選挙、みんな私と同じ考え方を持っている方が当選をし、県議会議員選挙では48名のうち27名が私と同じ考えを持ちながら当選をしておりますと。こういう民意を大切にしないと、日米安保体制というのは大変不安定なところに置かれることになりますから、是非とも今回の件は、沖縄ではなくいろんな形で考えていただきたいというような話をさせてもらったわけです。

それから、それぞれ専門分野があったりしますので、例えば環境が、これまでの政治経歴ですばらしいものを残されている方がおりましたら、どちらかという環境の方の話をさせていただきました。それから、安全保障の方に力点のある議員には、やはり日米安保体制は、こういう0.6%に70%を置いては安定的にはなりませんよと、ですから沖縄の基地の整理縮小は大切なんですよと、というような話もさせてもらったわけです。ですから、個別によって、2〜3割から4割ぐらいはいますけども、ベースの6割、7割は最初に申し上げた3点を話ししながら、それから時間が10分間という人と、1時間超えた人といいますので、それなりの長さだったり、長さだったりしますので、そのへんのところは御理解いただきたいなあと思います。

(記者)

昨日、調査局やった時に、裁判の県が敗訴した部分の指摘みたいのが出てきたりしたと思うんですけども、今日はそのあたりいかがでしょうか。

(翁長知事)

この件についてのものは、私はとにかく一つ一つ全力投球しましたので、あくまでも記憶なんですけども、1人ぐらいですね、裁判に触れる方はほとんどおられませんでした。

(記者)

今回8名お会いになったんですが、全員議員で、下院でしょうか。上院の方もいらっしやったんでしょうか。

(翁長知事)

全員、下院です。1人だけ補佐官にお願いしたのがありますけど。

(記者)

今日、お会いになって、知事としては知事権限もあるということで造ることは難しいと、時間もかかるしお金もかかるということを説明されたと思うんですけども、ワシントンでは日本政府が辺野古推進を強調しているの、そのまま継続されるのではないかという見方も多いのですが、今日、議員とお話しされて、そういった部分を感じ取られたのか、また今後どのような議員が阻止に向けて動いてくれるという実感みたいなのがあったんでしょうか。

(翁長知事)

議論が、ほんとに多くの議員と取り交わしたということは、私は柔軟性があると思っています。2年前の辺野古唯一という考えだけであったならば、会話はそうなかったと思いますけども、会話が合ったということは、大変柔軟性があったということです。私からすると、私がよく言うように順調にいても10年ですよと、意外と2～3年でできると、こう言った人はいないんですが、2～3年でできると思っている人も県民にも国民にもいたりするものだから、ここにもいるかも知らんと思って、あくまでも推測で、これは埋め立てに5年かかりますよ、上部はさらに5年かかりますよと、そういったような話もさせてもらって、そう簡単にはうまくいきませんよと、またその間、普天間を固定化するというのも、世界一危険だから、老朽化しているからということでそうなっているんですが、やはりそういうことも考えないといかんでしょね、みたいなものは、全員にではないんですけども、これも感触ですが、8名のうちの3名くらいにはそこまで話をしたんじゃないかなと思います。

(記者)

知事、先ほど冒頭で議論が深まったとおっしゃいましたが、個別の議員の方の発言は御紹介できないと思うのですが、知事が8名の方とお会いになって、一番議論が深まった点というのはどの。

(翁長知事)

いや、議員名は出したら、それこそ、昨日の調査局とかみんなそうですけども、完全オフレコというようなことが冒頭で言われますので、それと私自身はいわゆる一人一人に全力投球したものですから、一人と話しをして、2人目にはもう前のことを忘れて2人目と一生懸命対峙するわけですね。3人目、4人目次々そうなるわけですから、8名を終わった時には、今の段階では前の誰それがこういったのにこの人はこうだったというのは全くもうありません。ですから、調査局と補佐官と会ったのも昨日だったのかな今日だったのかなというね、本当にそういう状況ですので、いずれにしろそばには聞いて居るメンバーが居ますから、これから整理をしながら、少し分かってくるのかなというところですね。

(記者)

新政権になったことに対する一定の期待感もお持ちだったと思うのですが、今回お会いされた方の中に、知事の思いあるいは伝えたことをトランプ側に伝えて下さるような感触というのはありましたでしょうか。

(翁長知事)

いや、トランプさんの名前を出してというようなことはございませんでしたので、言葉を使う場合にも、新政権になったので、例えばこの外交面、安全保障面でもこれからは恐らく方向性が決まると思いますということをおっしゃる方は2人くらいはいたかなと思いますけども、それを具体的に言う人はおりませんでした。その時の表現方法も新政権に変わったからという表現だったように憶えています。

(記者)

移設計画を見直して欲しいという形で知事は頼んだのか、みなさんに断念して欲しいと働きかけたのか、どんなふうか。

(翁長知事)

私からすると、0.6%に70%ということで、ある意味では、まあ戦後のなりたちも少しは話しましたから、普天間基地をこういう形で沖縄に置くというのは、県民から言うと戦後70年間何も変わらないんだなあという思いでありますので、日本国全体

で考えてもらいたいという話をしたので、まあ、だいたい意味合いは通じていると思っております。

(12) 有識者との面談

ア 日時：平成29年2月1日 18:30頃～

イ 場所：ワシントンDC内

ウ 面談者：有識者2名（氏名非公表）

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行い、有識者と意見交換を行った。

(13) 沖縄コレクション公開セミナー講演

ア 日時：平成29年2月2日 11:45頃～

イ 場所：ジョージ・ワシントン大学エリオットスクール
6階 リンダーファミリーコモンズ

ウ 概要：沖縄の理解促進を図るとともに、沖縄コレクションの情報発信を行うことを目的として、沖縄関連研究者及び学生等を対象に、翁長知事から「沖縄の基地問題」について、富川政策参与から「沖縄経済の将来とアジア～脱米軍基地依存の展望～」について講演を行った。参加者は約120名。

【翁長知事 講演】

はいさい。ぐすーよーちゅーうがなびら。沖縄県知事の翁長雄志やいびん。これ、沖縄の言葉で今挨拶しました。「こんにちは。県知事の翁長雄志です。」という事を今沖縄の言葉でですね、紹介をさせていただきました。今、只今は富川教授の方から沖縄の昨今の経済の話が詳しく皆様方にご報告がございました。私も5年程前から「米軍基地は沖縄経済の発展の最大の障害要因である」という事を申し上げながら今日まで政治の方をしてきましたが、今、富川教授の方からそのことについての詳しい話がありましたので、大変感謝を申し上げたいと思っております。そして今回の講演、大変、ジョージ・ワシントン大学、そして特にマイク望月教授にはですね、手取り足取り大変なご指導をいただいて今日まで来ております。このことにつきまして心から感謝を申し上げたいと思います。今沖縄コレクションの話がございました。開所式には私も出席をし、そして沖縄県からしますと、沖縄県の歴史や或いは政治経済、文化、

そういったものがジョージ・ワシントン大学の図書館で紹介をされるということは沖縄を研究する人、日本全体を研究する人からしても、大変有意義な事であり、ひいては沖縄の基地問題にもご理解がいただけるのではないかとということでマイク望月先生のこれらのご指導をいただきながら、今日まで沖縄コレクション、お願いをしているところでございます。

そして、もう 2、3 日前なのですが、テキスタイル博物館でこの約 3 ヶ月間に渡って沖縄の大変素晴らしい文化であります、紅型ですね、展示をさせていただきました。私も閉店後の翌日の、閉会後ののですが、翌日の日に観に行きましたら全部残っておりましたので、観て来たんですけども、本当に沖縄県でもこれぐらいの展示会は出来ないというぐらい学芸員はじめですね、それから沖縄から派遣をした、職員の皆様方が短期間で素晴らしい物を作り上げてですね、沢山の方々が見学をされたという事です。子供達も沢山来て、折り紙をしたり、沖縄の文化に触れたという事で、こういった意味でもジョージ・ワシントン大学には心から感謝を申し上げたいと思います。

そして、今日はあと 2 つ、出来事がですね、あった事を簡単にご説明をして本論に入りたいと思いますが、今日は朝 6 時からですね、ナショナル・プレイヤー・ブレックファーストという事で、歴代、アジアの大統領から、63 年前から 1 年に 1 回、民主党、共和党も心一つにして、或いはまた全宗教の、宗教・宗派違いますが、一緒にして大統領を中心としての朝食会がございました。今日は藤田参議院議員お見えでありますけれども、ご一緒ですね、それに参加をして、またここにやって来たわけです。本当はその中身を紹介するだけでも今日お話をするですね、良い話が沢山あるんですが、本論が控えておりますので、簡単に申し上げますと、大変ありがたい事に、席が近かったせいもありまして、ティラーソン国務長官と自己紹介をし、握手をする機会を得ました。そして私の席にはトランプ大統領を支えている共和党の下院議員がすぐ私の傍になりまして、藤田先生が英語が上手なものですから、通訳もしていただいてですね、色々お話しもさせていただきました。そしてその下院議員がもう一人の下院議員を遠い所から呼んで来て、私が沖縄から来たという事を紹介もしてですね、もらいました。あと上院議員、下院議員、そこで紹介をさせていただいたわけですが、一つの朝食会を出ただけでこういう形ですね、後々またお話をしましょうというのを下院議員と交わしたのも良かった事だなというふうに思っております。

それから昨日、一昨日はですね、これからがワシントン D.C. で来たところの話と、それから沖縄の問題に入るわけですが。飛行機で来まして、30 時間ぐらい寝る事も出来ないで来たものですから、朦朧としながらですね、連邦議会の調査局、それから補佐官クラスが揃っているなかで約 12、3 名だったと思いますけども、合わせ

てですね、2 時間に渡る沖縄問題の議論をさせていただきました。沢山の質問がありましたし、私も答えていきました。この調査局の方々と補佐官は實際上、国会議員を支える政策的な重要な立場にあるものですから、この方々と2 時間以上議論が出来た事は大変良かったと思っております。

そして昨日は下院議員 8 名と、一人は補佐官が対応しましたが、残りは議員の方とですね、それぞれ話が出来ました。平均して 3、40 分程であります。短い人は 10 分ぐらいの人も一人おりましたけれども、長い方は一時間を超す形で沖縄問題をですね、話が出来ました。私はワシントン D.C.訪問は、知事になって 3 回目ではありますが、1 回目のワシントン D.C.を、来た時には連邦議会の議員も含めて大使館も国務省も国防省も必ず同じ紙をですね、最後に「辺野古唯一ですよ」と、「日米合意は動きませんよ」というものを読み上げて、自分の考えというよりは全部同じ台詞でしたから、読み上げてやる方が大変多かったです。そして一昨年…、去年ですね、ワシントン D.C.また来ましたら、今度はそういう事はなくなりまして、フリーで、自分の言葉でですね、沖縄の問題をよく理解していると。今話を聞いて理解したと。だけど普通に言うと、これは日本国内の問題だから日本政府に話したらどうだろうかという話をする人がベースになりながら、それ以外の話も色々ありました。

今回はですね、本当に一人残らずですね、全員がフリーの議論になりまして、そして疑問点、沖縄の現状、歴史、なぜ普天間が辺野古に移るのかとかですね、そしてその場合の状況はどうなるんだと。この話をすると長くなりますので、そういったやり取りが先程申しあげました、8 名の下院議員とですね、話が出来たという事です。確か民主党が 6 名で共和党が 2 名だったと思いますけれども、そういったような話をさせていただきました。

そういう事で、こちらに来てのですね、出来事と、それからジョージ・ワシントン大学、マイク望月先生に本当に心から感謝を申し上げてこれからですね、沖縄の基地問題、出来るだけ質問の時間を長くしたいと思いますので、大変端折った説明になるかもしれませんが、その方がむしろ、あれはどうだこれはどうだというですね、質問に答える方がいいのではないかという事で、ちょっと早口にもなるかもしれませんが、一通り沖縄の基地の問題を話をさせていただいて、ご質問を受けたいと思います。

まず、私がこの上院議員、下院議員の人とお話をする時に今言うようなコンパクトに話をする時の事をですね、皆さん方にお話をしたいと思います。

私自身は元々出身は自由民主党でありまして、今はオール沖縄、それを乗り越えて沖縄問題は皆で心をつにして頑張ろうやという立場で今、今日も来ている県議会議員の皆様方、それぞれ党派は違いますけれども、稲嶺市長もですね、心をつにして、辺野古に基地はつくらせない、これを一番大きなベースにしてですね、来ているとこ

ろであります。そういうなかで、日本国民全体です、安全保障は考えてもらいたい。日米安保に私は理解はありますけれども、今のような形で沖縄に押し付けてですね、日本の安全保障を考えるなどということとはとんでもない話だと、こういう話を最初に申し上げております。そして沖縄の歴史という事になりますけれども、簡単に皆さん方に、本当に端折って話をさせていただきます。

70 年前、日米戦争の中での一番最後のある意味で大きな戦いが沖縄本島で行われました。県民が 10 万を超える戦死者、米軍も 1 万人を超える、日本軍も 10 万人ぐらい亡くなると。そして地上戦であります。そのなかで住民は逃げ惑って兵隊と一緒にですね、動き回って、そして 10 万人戦争の中で亡くなっていきました。その戦争が終わって、沖縄県民は 3、40 万人ぐらい生き残ったわけですが、殆どが収容所に入れられたんですね、半年から一年間、自分の故郷に帰る事は出来ないまま、収容所に入れられたんです。そうこうしている間にですね、半年、一年経って、あの普天間の人は宜野湾に帰りましたら、普天間基地はですね、そこには市役所も銀行も学校も皆あった、しっかりした街だったんですけども、もう滑走路がひかれて、普天間飛行場が出来ているんです。ですから、帰ろうにも、もう基地になっているわけですから、自分の故郷には帰れません。ですから、その周辺に住む事によって、そして子供や孫が出来る事によって、今皆さん方がご覧になったような、普天間飛行場の周辺にはですね、もう沢山の家が建ってですね、これはもう世界一危険だと。それから 70 年経った今は本当に老朽化して使い物にならなくなってきた飛行場だというふうにも言われて、さあ、それからどうしましょうかといったところから、この問題の原点にもなって参ります。

沖縄県は戦後 27 年間米軍の施政権下に置かれました。日本が独立をして、サンフランシスコ講和条約で独立をして、いわゆる高度経済成長をしている間、沖縄県は 27 年間、日本国民でもなかったんです。アメリカ国民でもなかったんです。ドルを使っていました。そして国会議員も一度も出した事がないんです。そして 1972 年に返還をして参りました。昨日、お名前は申し上げませんが、大変、あの時代に沖縄県の事を考えたアメリカの学者の方と話をしましたら、1968 年 89 年に大変ご活躍をされて沖縄の為に尽くしたアメリカの学者なんです、つい数年前、3、40 年振りに沖縄に来たらあの頃の基地がですね、全くそのまま残っているという事に大変ショックを受けたという話をされておりました。あの返還はやはり基地を還すべくして、徐々に徐々に還すべくして返還をして、日米同盟の絆をしっかりとするという意味で還したはずなのに、40 年振りに来た沖縄は全く変わらない米軍基地であるというような話をその先生はされておまして、私達もこの時の長さです、今置かれている現状という事について、大変、ある意味では沖縄の置かれている形、それから日本の国の在り方、それから日米安保体制の在り方、こういったようなものに対してです

ね、大変な、今疑問を感じているところでございます。

そのなかで、三点ばかり話をさせてもらいますけれども、沖縄県は日本国全体からしたら 0.6%の面積なんですね。そして、そのなかに全国の米軍の専用施設の 70%が沖縄にあります。そしてこの 70%はほとんど沖縄本島にあるんです。ですから沖縄本島では米軍基地は 15%を占めます。全体の面積の 15%を占める米軍基地でありますから、大変、街づくりにおいても、救急車や、それから消防車、色んなものがございますね、迂回をしながら、何をしながらで、街づくりもままにならないような状況であります。そして、尚且つこの沖縄本島にはどれだけの人が住んでいると思います？私は 20 年ぐらい前からここはよく議員としても来たんですが、大体アメリカの国会議員もですね、20 年ぐらい前はどんな質問をしていたかと言いますと、「沖縄県は人口は何千名ぐらい？一万人超えるの？」って言うんですね。「基地がなくなったら生活は困りませんか？」と。これがこの一般的な質問でした。今をもってそれがございます。沖縄本島今どれだけ住んでいるかと言いますと、沖縄県全体では 144 万人ですけども、沖縄本島は 118 万人住んでいるんですね。これは東京、神奈川、横浜市に匹敵する人口密度なんです。その地域に 15%米軍基地があるという事を考えますと、先程富川教授がおっしゃった、「米軍基地は沖縄経済発展の最大の阻害要因だ」という事がこの例でよくお分かりになるだろうと思います。

そして、その普天間基地を移動させる時にあの美しい海を埋め立ててですね、新辺野古基地を、つくるという事になっていくわけでございます。あの基地は、もしですよ、順調に進んでいきましたも、これもこちらの国会議員は年数などというのは分からない方が沢山おられましたけれども、埋め立てるのに 5 年間、そしてその上に構造物をつくるのに 5 年間、10 年かかるんです。普天間が世界一危険だとかですね、言いながら、老朽化していると言いながらですね、少なくとも 10 ヶ年間は普天間を固定化する。世界一危険と言いながら固定化をするという事もですね、理不尽であるが故にこの 10 年間の中に沖縄県や名護市の色んなチェックをする機能がございます。法律的にも対処するものがいくつか出来ます。こういった事をやってまいりますと、山口県の岩国でもなかなかそういうチェックはですね、やりますと、工期が延びていきましたけれども、普通に言うと 15 年、20 年というのが考えられるような時期にもなります。当然私達からすると入口で止めるというのがですね、一番重要でありますので、入口で止めるようなですね、努力をして参りますけれども、今アメリカの国会議員に申し上げる時にはですね、15 年、20 年かかりますよと。そうすると、日米関係でも、日中関係でも、ロシアとアメリカの関係でも劇的にこんなに変わるのに、10 年も 20 年もこの基地がですね、どこを相手にですね、必要なんだというですね、抑止力の話をしてながらこれからこれだけの時間をかけてやりますかというような話もですね、私はこの上院議員、下院議員もですね、考えていただけたのではないかなと、

このように思っております。

そしてもう一つは一番重要なのは環境問題です。これも環境問題に専門家の下院議員もおられましたから、そこでは環境問題の話をさせてもらいましたけれども。あの辺野古の大浦湾というのは、沖縄の周辺の海の中でも、ある意味では一番のですね、美しい所で、5,800種の生物がいます。282種の絶滅危惧種がいるんです。ジュゴンが藻を食べてですね、毎年3頭ぐらい来るのが数年前では日常化しておったんですけども、今は工事が、ブロックを入れたり、船が走ったりしますので、なんか近づいている様子がないので、大変心配していますけれども。そういったような大浦湾をですね、埋め立ててつくろうとしております。5,800種というのはどのぐらいかと皆さん方思うかもしれませんが、世界自然遺産登録になっている屋久島、小笠原、白神山地ですかね、こういった所で、大体生物種はですね、3,000台です。あの大浦湾は5,800あります。ですから、これから世界自然遺産登録をするすぐ傍にありますから、その意味からしてもですね、ここを埋め立てるなどというのはですね、日本で言えば琵琶湖を埋め立てる、松島湾を埋め立てる、或いは十和田湖を埋め立てる、そういうようなものだというふうに考えてもらえれば宜しいかと思えます。本当に秋田県の人が、或いは琵琶湖の周辺の人が宮城県の人が松島湾とかですね、そういう所を埋め立てて、日本の抑止力のためだと、日本を守る為だという事であれだけの滑走路を作ってですね、オスプレイがですね、100機ぐらい、大きな音で飛び立てるようなものをですね、やるかという事を考えますと、沖縄に置かれている理不尽さというものをですね、よくよくご理解をいただきたいなど、このように思っております。

それからもう一つは、民意であります。沖縄県は、先程のサンフランシスコ講和条約でもそうなんですが、全ての基地は強制接收です。一番最初の普天間基地の様に誰も分からない間にとった所もありますけれども、今那覇市にある新都心地区などはですね、住宅もあって、人が住んでいる所をですね、いわゆるサンフランシスコ条約が発効した時にですね、いわゆる銃剣とブルドーザーで家を壊して、人もどかしてつくったんですね。ですから、沖縄の基地は全て強制接收で取られたわけなんです。ですから私は普天間基地を新辺野古に移す時に、自ら奪っておいて、「こっちが老朽化したから、危険になったから、またお前達が土地をよこせ」って言うのはなんだと申し上げているんですね。海を埋め立てると、この土地は初めて国有地にもなりまして、沖縄県が手を出せないような土地に変わるんです、この新辺野古基地はですね、160ヘクタール。今までの土地は私達のおじいちゃんおばあちゃん達が絶対に許さないという事で売らなかったものですから、出ていけという話も出来ますけれど、新辺野古基地はもう国有化、国有地になりますから、私達が出ていけという権利がなくなってしまうんです。ですからそういう違いも出て参りますので、この新辺野古基地のですね、恐ろしさを考えていただきたいんですけれども。そういうなかで、民意はどうやって示

されてきたか。私が2ヶ年、何か月前でしょうかね、知事に立候補いたしました。今申し上げている考え方で立候補いたしました。前の知事さんが新辺野古基地の承認をしたものですから、それは取り消すという事で、私は今までの話を皆に説明をしながらやりましたら、36万対26万という、10万票差で私が当選をいたしました。その年の1月には稲嶺市長が名護市長選挙で5,000票差でしたかね、しっかりとした票差です。名護市もノーという事で当選をしております。名護市、そして沖縄県です。そして私が知事になってですね、2週間後に衆議院が解散されたんです。衆議院が解散されましたら、全国では自由民主党が290議席を取ったんですけども、沖縄は4つの選挙区がありますけれども、4つの選挙区共、私達と同じ立場の人が衆議院議員を当選いたしました。そして年が越しまして、去年の6月、沖縄県議会議員選挙がございました。議席数は48名であります。そのうちの27議席が私達と共にこの考え方を持っている方が当選をいたしました。中間も4名と2人と、っていうのがありますが、4名も辺野古基地には反対、それ以外では野党になりますけれども、2人も中立ですね。ですから、その意味ではもう27対15みたいな形で大変圧倒的に県議選挙も当選させていただきました。それから2、3ヶ月後の参議院選挙。これも現職の大臣と私共との候補者の戦いでしたけれども、これも同じく36万対26万の10万票差で勝っております。これだけの多くの沖縄の人達がですね、反対しているにも関わらず、このような形で、松島湾の話もさせていただきましたが、沖縄だけはですね、何をお話してもこのようにして理屈が通らない。どうしてもこうにも出来ないというような状況があります。私が20年間でずっとワシントンD.C.とか色んなサンフランシスコの基地を視たり、色んな形で来て、ここの方とアーミテージさんなんか、マイケル・グリーンさんなんか皆お話しした事がございます、過去にですね。ここの国会議員もそうですけれども、そういった方々もそうなんです、言う事が必ずこういう事なんです。「国内問題だから日本政府に言いなさい。私達はあなたの言う事はよく分かるけれども、私達は当事者じゃないよ。」と。「日米安保体制、日米地位協定でね、そうなっているんだから、日本政府に言いなさい。」と言うんです。必ず言います。そして私はそこで色々話はしますけれども、ただアメリカからすると沖縄は日本を守るためのものだからあなた方に文句を言われる筋合いはないというのが基本的にありますから、こういったものを突き崩すっていうのはなかなか簡単じゃない。それを持ち帰って私が日本政府に言って、その時の立場でですね、防衛大臣、外務大臣にですね、「アメリカが日本政府と交渉しなさい。」と、こういう事で言われましたよと言いますと、残念な事にですね、何と云うかと言いますと、「アメリカが後ろで駄目だと言っているんだよ。」と。ね？ですから、私がワシントンに来るという時に色んな話がございます。日本、アメリカ国民は耳を貸さないんじゃないか。国会議員も耳を貸さないんじゃないかと。日本政府は、しかしアメリカの言う通りだと言っているわけ

ですから、誰が当事者か分からないんですよ。ここでたらい回しにされて、日本に帰ってたらい回しにされてですね、この沖縄という、ある意味では誇りも皆持っておりますし、おじいちゃんおばあちゃんの残してくれた文化にも大変な誇りを持って一人一人が生きているわけですけれども、こういった政治的なものになりますと、あの大きな米国、大きな日本政府がですね、それぞれ当事者ではないというですね、形で、この話を言われますと、私達からするとですね、どのような手立てで、民意もしっかり示されたんですよ。国会議員選挙も、県議会議員選挙も、知事選挙も、市長選挙も、皆ノーと言っているじゃないですか。それでも、「粛々と」という言葉を使ってですね、ずっとこの合意を続けようとするんです。あと私達に残されているものがあるかという事をですね、本当に皆で考えていかなければ、この日本の地方自治に対する考え方、民主主義という考え方、それから日米安保体制というのは、本当は自由や平等や基本的人権、自己決定権を守る共通の価値観を持つ国々同士で世界を守ろうという意味で日米安保体制があったはずなのに、その肝心要の私達の国がですね、沖縄というものを地方自治という観点から捉える事が出来ない。民意を無視するという事で民主主義という事を考えていない。130年前に沖縄県は日本の国民になったわけでありましてけれども、自己決定権が殆ど生かされなかった。私達の選択というのが無かった。こういったようなものの中で、現状があるんです。ですから、今私達はそういった事も含めてですね、色んな形でやってはおります。是非今日はお出での皆さん方がですね、そのなかで意を汲んでいただいて、多くの方々にこの理不尽さを伝えていただくなかでですね、この問題が、新辺野古基地がですね、つくられないように、そして行政としても全力を挙げて出来る限りの権能を使ってですね、この新辺野古基地はつくらせないというような事でやって参りますので、宜しくお願いをしたいと思います。

ちょうど約20分ぐらいになり…、約25分ぐらいになりましたね。ちょっと早口で、パーンとお話をしましたけれども、恐らく皆さん方の頭の中ではあの件はどうなんだ、この件はどうなんだという事があろうかと思えます。それはご質問でお答えさせていただきたいと思えます。いっぺんにふえーで一びる。ありがとうございました。

【質疑応答】

(質問者)

トランプ新政権は、沖縄を対中国政策の戦略的ツールとして利用したいようです。安倍首相も、沖縄の辺野古を支持していますが、この点についてどのようにお考えですか。沖縄の人々は団結して、どのようにこの新しい形の帝国主義体制と闘っていくのでしょうか。

(翁長知事)

はい。トランプ大統領は、本当に今恐らく世界中の人が、この方は特に米国を、世界を引っ張って行こうとしているんだろうといった、今皆でですね、お考えになっているところだというふうに思っております。

ただ沖縄問題に関して言いますと、今日までの日米両政府ずっと何の変化もないまま、沖縄の基地が維持をされているわけです。私は沖縄の基地は、もう今いっぱいいっぱいですね、これ以上あることは、悪くなることはないと思いますので、その意味からすると、大変変化が予測されるトランプ大統領にはですね、是非とも良い方向で変化があってほしいなど。このように思っております。

そして私は米国の上下両院議員の方にお話をしているのは、何かというと、昔は今言う総理や米国がツールで使おうとしていると言うお話がありましたけれども、昔は沖縄はですね、中国に近くて、大変沖縄が抑止力として、そこに嘉手納基地があり、普天間基地があって、何かがある時ににらみがきかすというような状況がありましたけれども、今はもう世の中が発展して来てですね、どういうことになっているかというと、中国に近いと言うよりは、近すぎてですね、中国からすると、いわゆる軍事専門家のお話では 300 のミサイルがですね、沖縄に向かってミサイルが発射されるような状況だというふうに聞いております。

そうすると、いざ、いわゆる抑止力を発揮しようとする、どこを一番先に狙うかと言ったら、一番中国にとって脅威なのは、嘉手納と普天間じゃないですか。そうすると嘉手納と普天間に先ずは行くじゃないですか。ミサイルは1分以内で届くと言っておりますので、こういったようなことが起こり得ますよと。

そして今沖縄県には米軍人・軍属が5万人います。私は沖縄県民の命が危ないという話はしませんでした。5万人の米軍人・軍属の命が一瞬にしてやられますよと。沖縄ではもう、そういった抑止力はですね、もう効かないんですよ。だからグアムに移し、ハワイに移し、サンフランシスコに移して、そして何かある時にはまた沖縄なり日本国にですね、戻って来るといようなものはあり得ても、沖縄にこれだけのことを置いとったら、ジョセフ・ナイ先生がおっしゃったように、「卵を一つのカゴの中に押し詰めると割れるよ」といような基地の問題がですね、ありますので、その意味で米国も総理も考え方が間違っていると思いますが、ただ残念ながら日本の歴代の総理もですね、日本国民全体で国を守るという気概はもう無いんですね。沖縄で守る。他のところから少しでも反対したら、すぐ出ていきますから、そういった事等も、色々なお考え方があると思いますので、私の説明だけでは納得できない方もおられると思いますが、そういう状況がある中での、私は今の日米両政府のですね、沖縄というものの見方を変えようということで、昨日も8名の国会議員とお会いしましたし、今日これ途中で退席するのは、また連邦議会で5名くらいの議員とお会いをしますの

で、それで出ていくんですけれども、そういう状況があります。

(質問者)

グアム、ハワイへの米軍基地移転に言及されましたが、グアムやハワイでも米軍基地受け入れに反対する勢力はあります。グアムのNGOやハワイ人問題事務局 (Office of Hawaiian Affairs) では連携して、共同で行動を起こそうという動きもあります。グアムやハワイの米軍基地移転に反対する団体との連携を考えたことはありますでしょうか。それとも、グアムやハワイと連携すれば米軍基地が沖縄に留まる可能性を高めることになるため、沖縄にとっては受け入れがたい戦略でしょうか。

(翁長知事)

ハワイとグアムという話がございました。今沖縄県の海兵隊の状況がどうなっているかと言いますと、前は辺野古のできあがるのと普天間を移すまで待ってグアムに移転するかという話でありましたが、これが3年ほど前にチャラになりましてですね、それとは関係なく、グアムの方に8千名沖縄の海兵隊が移ることになっております。

それからハワイのイゲ知事は今私と同じ2年半ほど前に当選をしたわけですが、沖縄県出身なんですね。ですから私はもうイゲ知事とは5回くらいお話を致しております。イゲ知事も当然、米国民でありますから、沖縄県出身というよりは米国民でありますから、日米の両政府が決めることに私は賛成です。逆に言うと、アメリカにハワイ、沖縄の海兵隊を例えば3千名持っていけと言ったら、受け入れます。受け入れるけれども、それは政府が合意した時に受け入れるわけで、政府とは関係なくハワイが受け入れるわけではありませんよ。

しかし、今、日米両政府はですね、ハワイにも3千名から2千名ですね、移そうという話がありますので、そうしますと、沖縄に残る海兵隊はですね、1万人か1万人を切るという事ですね、これはローテーションがですね、ありまして、沖縄にいない数が多いですから。軍人の数はですね、沖縄には何の説明もありませんから、やはり千名2千名規模でオーストラリアに行ったりですね、中東に行ったりですね、そういった訓練もしていますので、實際上、海兵隊は何名いるか分からない中で1万8千人ですね、いるという形になっております。

ですから、グアムは、グアムの議員にも去年お会いしましたが、是非来てもらいたいですね、政府側からすると。今言ったようにNPOとか平和団体は反対しています。しかし、州知事とかは是非とも来て経済の活性化に繋がりたいという話ですね。ですからハワイは日米両政府が合意をしたら受け入れますよ。これは間違いなく私が受け入れますという話をされていますので、そこと共同するということはですね、なかなかまたそれぞれニュアンスが違って難しいところがあります。国内でも例えば県外に持

っていけと言っても、日本国全体からすると「沖縄県に基地を置いちゃいかん」という気持ちを持っている人が沢山いるんですが、何々県にっていうことになると、「うちもだめよ」ということになりますから、共闘の仕方がですね、なかなか難しいです。ですからこういったこと等を踏まえての米軍基地の問題ですので、ご理解いただきたいなと思います。

(質問者)

辺野古の環境が保護されることを願っています。有害廃棄物に関して懸念を感じており、米国政府が沖縄や琉球諸島の環境を破壊しないように有害廃棄物や核廃棄物を取り除いているか、沖縄県として十分にモニタリングされていることを期待します。

(翁長知事)

はい。米軍が沖縄での施政権下にあった時には、私達は憲法で守られていませんから、米軍のある意味したい放題ですね。復帰後はじゃあ私達は民主主義国家に本当に入ったかということになりますけれども、日米地位協定というものがあって、日米地位協定はですね、環境問題等のはですね、何にも日本国民に告知されないようなそういったような詳しく説明出来ませんけれども、できております。

去年私達が環境問題、いわゆる放射能もそうですけれども、それ以外でも沢山の毒物があります。これを調査をさせてくれというのは、今までは米国が理解をしてくれる時だけ入れてくれるという話だったんですね。ですから、何割くらいが入れたのか分かりませんが、一応調査をすることは可能でありました。

ところが、日米地位協定を変えてくれと言ったら、これがですね、補足協定といって、抜本的なものではなくて、どういうふうに変ったかと言うと、返還が決まった土地は7ヶ月前から調査して良いですよと。7ヶ月後には還される土地は、7ヶ月前から日本国民がこれを環境を調査して良いですよと言ったら、少し良さそうな感じしますよね。少し良さそうな感じするんだけど、その代わり、返還されない土地はですね、余計窮屈になっているんです。

いわゆる今まで返還されない土地も一応は申し入れると、何割かは「いいよ」と、「調べなさいよ」といった感じなんです。7ヶ月前に返還が決まった所は、これはある程度は調査する権利がある。だけど、逆に言うと、返還されないところは、そのまま、ある意味ではもっと厳しくなるような感じの状況になっております。

ですから、だいたいこういう難しい操作をするものですから、補足協定が出来たら、なんかもう前に進んだような感じがしますけれども、実際上は厳しい環境に沖縄はおかれております。

ですから今おっしゃるような、放射物と言いますのは、私共の環境部はもう一生懸

命調査をして、色んな形でやるんですけれども、限界があるものですから、ある意味全部調査をして、分かるというような状況では、今ございません。だけれども、基地の返還と同じように、どこに押しでもですね、なかなか日米地位協定同様ですね、なかなか進まないというのが今の現状です。

(質問者)

沖縄の米軍基地問題に関心があります。米国政府が普天間移設とグアム移転をリンクしたことに知事は言及されましたが、私はそれを喜ばしく思います。私の理解では、米国側も普天間基地は危険であり、閉鎖されるべきと見ていると思うのですが、問題はどこに移設するかということです。辺野古は理想的な移転地であると言われ、2011年か2013年頃、辺野古地区の住民投票では、辺野古への移設に対して、経済的な効果から肯定的な結果が出た記憶しています。辺野古地域の住民は基地の移設をどのように捉えているのでしょうか。もし現在、基地の移設に否定的であれば、いつ変わったのでしょうか。またもし辺野古への移設しないのであれば、どこへ行くのでしょうか。

(翁長知事)

新辺野古基地で、他にも色々案もあったでしょうけれども、それから8年程前には、「その時の市長さんは賛成だったのではないですか」ということでありますが、先程私が講演で説明した通り、正確には何年前だったですかね… 2010年、もう7年前ですね。7年前から稲嶺市長がお出でであります。辺野古の名護市の市長として、7年前から反対をしてですね、今2期目に入っております。来年のまた今頃は選挙が来ますので、また当選してもらわないといかんと思いますけれども、何れにしろ、今の市長さんは反対をしているわけでありまして、その意味から言うと、沖縄県の民意は全てこの3年前にですね、行われた選挙では、この辺野古基地をつくるということについて、NOだということだと言えます。これだけでよろしいでしょうか。他にもありましたら…はい。

(質問者)

知事は辺野古の新基地建設に反対しておられますが、他の代替案はあるのでしょうか。辺野古への移設に関する訴訟に敗訴され、承認撤回を取り消すと表明されましたが、知事のお考えをお聞かせ下さい。辺野古が唯一の案であるとは思えません。

(翁長知事)

はい。撤回の件についてはですね、私も色んな方々から、「すぐやいなさい」と。

或は「熟慮してやりなさい」と。或は「またじっくりかまえてやりなさい」というような色んな意見がございました。沖縄県が辺野古基地をつくらせないという一つの目的に向かってやって行くためには、先ずは岩礁破碎許可というのが3月末に来ます。これをどうするかということもございます。

それから岩国基地でも設計変更、そういったようなものが8回行われておりますから、設計変更とって詳しく話をする時間はありませんけれども、今まではこういうふうに工事をしようと思ったけれども、こういうふうにしますよと皆沖縄県に許可を取らなければいけません。名護市にも許可を貰わなければいけません。そういったようなこと等が一つチェックとして来ていますので、私達は客観的にしっかりと判断をしてこの問題に対処していきたいと思っております。

撤回という話なんです、今新聞紙上などであるものは、ある意味で私共の考え方を全部赤裸々に話をしないとですね、あなたのようにご理解がいただけない。戦術と言うのは、色々考えながらやっに行かなきゃならない部分があるものですから、今言ったような形でですね、どうだ、ああだという話はですね、政府でさえ言わないのに沖縄県はこうしよう、ああしようなどと言うのはですね、これは言えません。

ですから私は、今このような形で申し上げた通り、新辺野古基地はつくらせない。そしてアメリカの上院下院議員の方々には順調に行ったらって10年から20年かかるんですよ、という様な話をしながら何をするかという事についてはですね、私共は一生懸命、今やっておりますけれども、それをあなた方には「ああ、そうか。そうなんだ。」というようなものでですね、お話をすることは出来ません。ですから私達のそういう協定の姿勢というものを是非ご覧になるなかから、「さあどうするか」というものにさせていたいただきたいと、こう思っております。

(質問者)

トランプ政権にどのようなことを望んでいますか。米国は長年、米軍基地の存在は地域の平和と安定をもたらすと説明してきました。この意見には賛成しますか。また米軍基地を撤退してもらいたい理由を説明頂けますか。

(翁長知事)

先程、私の講演でも申し上げたんですが、日米安保体制というのは、日本国民全体で考えてもらいたいと言っているんですよ。0.6%、日本全体の0.6%の、それも東京と同じぐらい人口密度がある所にあれだけの70%の米軍基地があるんですよ。これは賛成とか反対の問題じゃないんですよ。もう嫌だと言っているんですよ。半分以上持って行ってくれと。それなら私も我慢しますよと言っているんですよ。あなたがおっしゃるのは、「何故安保体制は重要なのに、沖縄は基地に反対するんだ。」と言う

んですけど、あなたの所に 70%の基地を預かったらですね、お分かりになると思いますよ。こういったようなものをですね、一つの所にこれだけ押し込めておいて、少女暴行事件からジェット機が墜落したものまで何件あるか、5,000 件あるんですよ。強姦とか殺人だけでも 500 何件あるんですよ。こういったような事が沖縄だけで集中的に行われていて、日米地位協定では人権も守られないというようなですね、こういう状況を放ったらかしにしておいて、沖縄で基地反対するのは世界の平和のためにどうなんだというのはですね、そんな悠長な考え方は沖縄にだけ押し付けてはいけません。皆で考えなければいけない。端的に言うと、そういう事です。

(14) スコット・テイラー下院議員面談

ア 日時：平成29年 2月 2日 14:00頃～

イ 場所：キャノン議員会館 テイラー議員居室

ウ 面談者：スコット・テイラー下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(15) マット・ゲーツ下院議員面談

ア 日時：平成29年 2月 2日 14:35頃～

イ 場所：キャノン議員会館 ゲーツ議員居室

ウ 面談者：マット・ゲーツ下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(16) エヴァン・ジェンキンス下院議員面談

ア 日時：平成29年 2月 2日 15:30頃～

イ 場所：ロングワース議員会館 ジェンキンス議員居室

ウ 面談者：エヴァン・ジェンキンス下院議員及びスタッフ

- エ 概要：翁長知事から、過去1年間の辺野古新基地建設をめぐる沖縄の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。
- ※ 具体的発言内容については非公表

(17) スティーブ・ウォーマック下院議員面談

- ア 日時：平成29年2月2日 16:30頃～
- イ 場所：レイバーン議員会館 ウォーマック議員居室
- ウ 面談者：スティーブ・ウォーマック下院議員及びスタッフ
- エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。
- ※ 具体的発言内容については非公表

(18) 議員面談後の知事のぶら下がり取材対応

- ア 日時：平成29年2月2日
- イ 場所：レイバーン議員会館前

(記者)

今日なんですけども、どういう方とお会いして、どうお話しされたかということと。

(翁長知事)

下院議員4名と会ってきました。

(記者)

どういった内容をお話しされたんでしょうか。

(翁長知事)

いや、もう私から申し上げるのは、昨日の取材で申し上げたとおりです。
向こうの方からは大変、その意味では理解のある、私が言うのは本当にその意味で

言っているんですが、理解のある言葉をいただきました。もちろん、私が言うのに賛成というわけではありませんが、大変、沖縄の意見も伝わって良かったと、初めて聞くという人も4名のうちの2～3名いましたし、昨日も8名のうちの3～4名が初めて聞いて理解ができたと、おそらくそのうちの5～6名ぐらいが自分の関係する委員会に出たらその件については確かめたいと思うので、やってみたいということで、今回は日米合意が一番だという人は12名のうちの1人しかいませんで、残りは意見交換という形で出来ましたので、本当に2年前1年前とは違うようなですね、なんていうんですかこういうのは柔軟な質問、そして私が説明をしても、特段、それはちがうんじゃないかという話ではなくて、日本語的にいうと承りましたとよく理解できましたというような感じで話をしてくれました。

(記者)

確認なんですけども、昨日もなんですけども、お会いした議員の皆さんに対して知事としては裁判で敗訴したとしても今後も知事権限を行使して阻止をしていくことに変わりないことは伝えたんでしょうか。

(翁長知事)

裁判に触れた方にはそのようにお話ししています。昨日もお話ししたとおり、10分だったり1時間だったりしますので、その意味では話す内容も環境とか、安全保障とか、私は資料見て行きますから、この人は外交委員会なんだとか、環境問題を10年やっているんだとか、いろいろ見ながらやっていますから、その方向きの話をしたりもしますので、今、質問のあった裁判のことについて、聞かれたのは2名か3名だったと思います。2名とか3名の中では今のような形で知事権限、市長権限というものもありますから、10年で、今順調に行けば出来ると言っていますけども、簡単に10年ではできるような状況ではありませんよと15年、20年という言葉を使いながら説明をさせていただきました。

(記者)

委員会で確かめたいとおっしゃったのは複数の方だったんですか。

(翁長知事)

複数です。5～6名くらいいましたね。自分は何々委員会けども、そこでこの問題が出たり、沖縄のことが出たら、今知事から話ししたことも話しをして、また実際上どういう経緯があったかというのを自分でも調べて見たいというような話でした。

(記者)

知事として、今日お会いになった方がですね、沖縄の問題についてどの部分に特に関心が高いというか、情報をもっと欲しいという感じの印象が。

(翁長知事)

とにかく半分くらいの方は、ある意味で初めて聞く方になります。残り半分の方は、当然日米合意とかですね、そういったことも分かりつつも、私がいう 0.6 %がどうだとか、美しい海がどうだとか、民意はどうだとかというやはり、この人たちはみんな初めてなので、去年、一昨年は聞いてはいなんですが、それにしても、そういったことをよく知っているという人でもこの私が申し上げたことについては、改めてびっくりするようなところもありましたので、大変今回の訪問という意味ではですね、いい形で、会った人には伝えられたのではないかなと思います。

(記者)

今日は、国務長官とはどんなお話しされたのでしょうか。

(翁長知事)

国務長官とは自己紹介と握手だけです。ですから、私が日本の沖縄県から来た翁長ですと、言ったら、ちょっと発音は同じじゃないですけど、「オー」と言って、それで握手をして、どっちから求めたか分かりませんが、握手をさせていただいて、そして SP がすぐそばに来て、普通の人にはさせませんので、私の場合には、ある意味、近づいてしまったので、声をかけさせてもらって、聞いてもらいましたから、その意味では、まあ、ラッキーだったなという感じですね。

(記者)

短い時間でも、話ができた、挨拶ができたというのは、今後に影響って出てくると思いますか。

(翁長知事)

やはり、沖縄と言うことになると、どなたでもだいたい分かります。沖縄というのはその意味からすると、いい意味でも、悪い意味でも、恐らくは他の都道府県、まあ東京なんか別にして、他の道府県に比べたら、どなたと話をしても沖縄ということでしたら、正確じゃありませんが、8割くらいは分かるんじゃないでしょうか。

(記者)

日本のメディアで報じられているんですけども、岩礁破碎の更新について、国の方は更新はしない形でこのまま辺野古移設の作業を進めていくという方針を持っているみたいなんですけど、これについて知事はどのように。

(翁長知事)

報道では聞いていますけども、うちの方に防衛局なり、防衛省からそういった話もありませんし、逆にまた沖縄県がどういうふうに考えているということが報道にあったようなんですが、そういった向こうの考え方も今分かるわけではありませんから、その意味については、どういう形で記事が出てきたかというのは私は分かりませんが、いずれにしろ、私もそういう話を聞いて、どこでどういふうにそういうふうに進んでいるんですかと、職員にも聞いたぐらいで、その意味からいうと、今のところこれについてはコメントができるような状況じゃないです。

(記者)

ただ一方で、週明けにもですね、防衛はコンクリートブロックを海に投下するという計画を持っています。実際にそのコンクリートが沈められるような状況になった時に、県として何かしらの対策というのはいらないとというその考えには間違いはないでしょうか。

(翁長知事)

環境部とか知事公室とかいろんな話をしています。事務方も、今大変意欲的に一つ一つに取り組もうとしていますので、そしてこれは法律的な関係もありますので、いろんなものを勘案しながら一つ一つ乗り越えていきたいというふうには思っています。

(19) 沖縄コレクションワークショップ 開始時挨拶

ア 日時：平成29年2月3日 10:00頃～

イ 場所：ジョージ・ワシントン大学ゲルマン図書館

ウ 概要：沖縄コレクションの利活用促進を図るため今後の方針や展望について、有識者（米国内大学教授、沖縄関係研究者、図書司書）で意見交換を行うワークショップの開催にあたり、翁長知事から開会の挨拶を行った。

(20) マイク・ドイル下院議員面談

ア 日時：平成29年2月3日 11:00頃～

イ 場所：キャノン議員会館 マイク・ドイル議員居室

ウ 面談者：マイク・ドイル下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

※ 具体的発言内容については非公表

(21) 議員面談について

今回訪米では、連邦議会下院議員12名及び議会日程の都合上、下院議員の代わりに対応した補佐官1名と面談を行った。

今回訪米の議員面談では、概ね以下のことについて訴えた。

第1点目に、戦後71年を過ぎても日本の国土面積0.6%の沖縄県に約70.6%もの米軍専用施設が存在し続けており、過重な基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設は到底容認できないこと。

2点目に、辺野古・大浦湾の自然環境は、世界的にも貴重な生物多様性が残された奇跡的な海であり、ジュゴンをはじめとする絶滅危惧種262種を含む5,800種以上の生物が確認されており、この貴重な自然環境を破壊する新基地建設は将来にわたる大きな損失であるということ。

3点目に、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し続けており、県民の理解が得られない辺野古新基地建設を日本政府が強硬に進めると、在沖米軍基地の安定的な運用が難しくなるのではないかとということ。

先方の意向により、具体的に誰の発言が明らかにできないが、「この問題についてもっと理解を深めたい」、「非常に重要な問題だと認識している」、「知事の立場はよく分かった」、「米国もこの問題について慎重に考えた方がいいというのは理解できる」、「自分の所属する委員会で関連する議論が上がったら、知事の見解を伝えたい」、などの発言があった。

また、中国や北朝鮮の動向に対する見解、沖縄県民の米軍に対する感情、辺野古新基地建設に代わる日本国内での代替案の議論、米国新政権の動向、米国新政権のコスト意識などについて質問や助言がなされた。

(22) 連邦政府要人面談

ア 日時：平成29年2月3日 15:15頃～

イ 場所：国務省

ウ 面談者：国務省 ジョセフ・ヤング日本部長

ジャスティン・ヒギンス広報担当部長
ジェフリー・シェルスタッド政治・軍事担当
クリスティン・ハウ政治担当

国防総省 ポール・ボスティ日本部長代行

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、基地負担の固定化につながる辺野古新基地建設に反対であること、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境が破壊されることは大きな損失であること、多くの県民が辺野古新基地建設に反対し選挙結果で民意も示されていること、工事を強行することの日米安保体制への影響の懸念などについて説明を行った。

東京で行われてた安倍総理とマティス国防長官との会談内容を踏まえ、翁長知事から、県民の理解が得られない政策の強行がなされれば、日米安保体制は必ず厳しい状況になるとの懸念を伝えた。

(23) 佐々江駐米大使表敬訪問

ア 日時：平成29年2月3日 16:25頃～

イ 場所：日本大使館

ウ 面談者：佐々江賢一郎大使、前田参事官

エ 概要：ジョージ・ワシントン大学テキスタイルミュージアムにおける紅型展開催への尽力などについて、知事から御礼を申し上げ、今回の訪米について、説明を行った。

(24) 記者会見

ア 日時：平成29年2月3日 17:00頃～

イ 場所：ナショナルプレスクラブ

ウ 参加メディア関係者：37名

エ 概要：

(運天参事)

本日は沖縄県の知事訪米にあたり記者会見にご参加いただきありがとうございます。

まず最初に知事からコメントをいただいた後に質問事項を受けたいと思います。

(翁長知事)

報道陣のみなさん御苦勞様でございます。お忙しい中このように足を運んでいただきまして、こういう機会を得ましたことを心から感謝申し上げます。

この訪米の中身については、御質問の中で出てくると思いますので、この一連の時

系列的な1ページくらいにまとめた私の行動というのをお知らせしてから進めた方がいいか、それもいらないからすぐ質問がいいかというのはどうでしょうか。

(幹事社)

まず、お願いします。

(翁長知事)

それでは、約1ページでありますので、それを申し上げてから御質問をお受けしたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

平成29年1月31日にワシントンD.C.に到着し、本日までの4日間、連邦議会調査局、連邦議会議員との面談、ジョージ・ワシントン大学における「沖縄コレクション」関連イベントである公開セミナーなど、様々な場面で、引き続き辺野古新基地建設に反対していく県の姿勢、辺野古新基地建設問題をめぐる沖縄の状況について説明してまいりました。

今回行った面談等について、時系列で申し上げますと、

1月31日は、到着した日でありますけれども、連邦議会調査局及び議員補佐官等10名以上の方々とお話ししました。10名以上というのは2、3入ったり出たりするものですから、10名以上であります。

2月1日は8名の連邦議会議員と面談しました。

2月2日の朝、トランプ大統領、副大統領が参加されたナショナルプレイヤーブレックファーストに参加し、近くに偶然やることができましたティラーソン国務長官と自己紹介をし、握手をする機会に恵まれました。また、4名の連邦議会議員とお話しすることもできました。

2月2日の昼には、ジョージ・ワシントン大学における「沖縄コレクション」関連イベントとして、120名以上の方々に参加いただいた公開セミナーでお話しさせていただきました。

2月2日の午後は、4名の連邦議会議員と面談しました。

本日、2月3日は、沖縄コレクションのワークショップで御挨拶した後、連邦議会議員1名と面談し、米務省のヤング日本部長並びにヴォスティ国防総省日本部長代行とお会いしました。

今回の訪米で連邦議会議員13名の方々とは面談した結果、多くの方々とは違いますが、多くの方々は2回目1回目とは違いますが、本当に柔軟な形で議論を、意見交換をさせていただいたところがございます。当選して初めての議員もおられましたし、ベテランの議員もおられましたけれども、一応に沖縄の今の現状、辺野古の状況等を質問をしお答えをしたところがございます。

13

2

10

30

10

D.C.

官が日本を訪問し、そして 10 日には安倍さんがこちらに来てトランプ大統領に会うというのは、やはり、日本国がその意味では大変焦っているのではないかなという感じを持っております。私の訪米の時期は、だいたい去年の暮ぐらいから政府の方にもだいたいこの時期だというふうに伝わっているわけですから、多分、私からすると偶然の動向というよりは、むしろそういった時期に早めに物事はやっておこうというものがあったのではないかという危惧は持ってしております。しかし、この件は推測に過ぎませんので、この件をベースにしながら話すわけにはいきませんが、いずれにいたしましても、私どもは去年の暮れからワシントン D.C.に来て訴えていこうということをしていただきました。今言うように、そういうことが決まる前にということも新聞紙上で、読者の皆さんからも声もありましたけども、こういう時期というのは、例えば去年の暮れ、決めたからサッと行くというようなものとは違いますので、そういう意味ではこの時期になって、なおかつ最終日にですね、マティス国防長官と安倍総理で辺野古唯一ということを決めたということは、これは沖縄県民に対してですね、大変、私からすると失礼なやり方ではないかと、このように思っているところでございます。

(記者)

知事、今回ですねトランプ政権が予測不能だということに期待をかけて訪米された部分があったと思うんですけども、こうした辺野古が唯一ということが訪米中に確認されてた中で、知事としては期待が打ち砕かれたということなのか、あるいは、今後、政権が始動したばかりなので、今後やはりトランプ政権というものに対して、何かこの方針が変わっていくということに期待を持っていらっしゃるのか、そのあたりについておねがいします。

(翁長知事)

訪米をする時の新政権に対する思いはいろいろございます。そういう話をする時に私が発言をすると、ワシントンにも届いてまいりますので、慎重な姿勢で話をさせていただきました。その中ではやはり新政権がどの分野においても、私がいろんな情報を得る限りにおいては各国とも、あるいはあらゆる科学者とか政治学者とか方向性について見定めることを大変難しく考えていたように思います。

そういうことで、先の見通しが無い中にも、そういう不安定な発言が多かったものですから、それでも私の気持ちからすれば数パーセント、その中でも 1～2パーセントは可能性があるのではないかというぐらいの気持ちでございました。

今の日米両政府の基本的なベースからすると、そういったことの固さ加減というのはよくわかるのですが、しかしながら、私ども沖縄県民はまた今日までの状況とは違

った形で大きな政治勢力を作っておりますし、なおかつ辺野古には絶対に反対というような世論も選挙で示されてまいりました。ですから、私がいろんな連邦議会議員、それから国務省、国防省、国務・国防だけは分かってから話をしたわけですけども、それ以前のわからない場合の時にも、こういった問題についてですね、もし辺野古唯一ということになりましたら、これは早くて10年、15年から20年、そしてもちろん僕らは入り口で止めようとするわけですけども、そういったような中で、日米安保体制はその工事のやり方のものが全世界に発信をされる中で、自由と平等と人権と民主主義を守るために日米安保体制があるにもかかわらず、国内の沖縄県民に対してこのようなやり方をすることが世界に発信をされたならば、むしろもっと大きなダメージがあるのではないかと、いうことを分かる前にも申し上げましたし、今日、国防省の代表にはもっと強くですね、いろんな意味合いを解いて話をしました。

(記者)

知事、今回3回目の訪米になります。1回、2回目と比べていろんな話を聞いてもらったというふうに成果をおっしゃってましたが、今後、議員や有識者の方に具体的に辺野古計画の見直しに向けてどう動いてもらうかということが課題になってくるかと思えます。この先行きについて、知事の具体的な計画がありましたら教えてください。それと、知事、先ほど工事を入り口で止めるということをおっしゃいました。実際6日に国は辺野古の埋め立て工事に着手する姿勢を見せています。これをどのように阻止なさるか。考えをお聞かせください。

(翁長知事)

3回目ということで、前にも言及したとおり、1回目は外務省があるいはアメリカの日本大使館が作った文章を全部読み上げる形、その前はいろいろ議論をしたり、私の話も聞いたりしてよく理解できたという話をするんですが、最後の方は読み上げる形で、全員が全員という形ではありませんが、9割ぐらいがそういう形で対応しておりました。

東京行きましてケネディ大使と話をして、他の話をして時間がきましたので私が帰ろうとすると、ちょっと待てとって読み上げたのが、ワシントン D.C.で読み上げられた言葉と全く一緒でありまして、そのような形でですね、いわゆる沖縄に対する見方というのがまずあったということを報告しておきます。

そして、2回目は、これは簡単に申し上げますけども、フリーな形での言葉でございました。そしてその中で一番多かったのは、私のいうことで沖縄の立場はよく分かったと、そして日米が合意する場合には、私は動けませんねというのが半々ぐらいおりました。しかしながら、杓子定期的な言い方は2回目はございませんでした。

3回目の今回でありますけども、このように今日、マティス国防長官と安倍さんが発表をしたわけでありますが、その発表の前までの全議員の状況を申し上げますと、みんなオフレコにしてくれと言われているので、少しぼかしますけども、一人二人が日米が合意したものは、そのとおりしかしようがないですね、という話がありました。残りは全員が、その中でも約1/3くらいが白紙の中から私に伺いました。残りは辺野古への理解を一定程度もちつつですね、そうなのかとそして私が持ってきた資料を見ながら、そういうことだったのかと、そしてお会いしたうちの1/3くらいが、私は何々委員会にいるから、何々委員会にいるからという別々の委員会の名前を挙げて、沖縄の問題が出たら、今日聞いたことを伝えて、その中で議論をしていきたいと、そのような形でしたから、いわゆる議会という意味ではですね、大変、私からするとこの2ヵ年間で三十数名ですから全議員じゃないんですけども、しかし、これも取り立てて沖縄に関心がある人を選んだわけではありませんので、その意味からいうと、全体的にもそんな感じのものが議会にはあるのではないかという推測をしております。

議員にどういうふうにして動いていくかということですが、その13名の中で1/3くらいがですね、ぜひ勉強したいので、どういうふうにしたらいいたということ、それで、ワシントン D.C.に事務所があるから、二人の名前と名刺交換をしてもらったり、何かあったら呼び寄せたり、電話をしたり、そういう形で聞いてくれと、いう話をしたら、分かったとこの問題は勉強させてくれというのが1/3くらいおられましたので、残りのメンバーも、全員私と写真をとり、そして沖縄において下さいということとか、最後に申し上げながらやってきておりますので、これからワシントン D.C.の事務所の職員がですね改めて働きかけていくものだと思っております。

そして、入り口でどうやってとめるのかという話がございました。昨日のジョージ・ワシントン大学での講演でも申し上げました。日本政府の方針がこういう状態でありますので、私も戦術は申し上げられませんが申し上げております。私の新辺野古基地建設を絶対に阻止をするという決意は変わっておりません。その方向性でもろもろ考えていきますが、法的な側面、政治的な側面、あるいはその効果、期間、いろんなものをですねいろんな方と相談をしながら、今検討をしているところでありますが、どのようにということには、お答えをすることができないことをご理解いただきたいと思います。

(運天参事)

予定時間となりますので、最後の質問とさせていただきますと思います。

(記者)

訪米されている間に辺野古が唯一という日米両政府の方針が示されたわけですが、これを受けてですね、県民や県内からは、この訪米にはどういった意味や効果があったのかという疑問も出てくると思いますけども、これに対する翁長知事の反論といますか。今回会った効果というのをより具体的にお聞きできればと思います。

(翁長知事)

私がお会いをした方々に、今回の結論をいうとかそういう前に申し上げたのは、沖縄県民は、もう限界にきています。いわゆるアメリカも当事者ではない。国内問題だと言っても、日本国に帰ったらアメリカがだめだよと言われるんだよというようなたらい回しをされるようなこういう状況の中で、10年も15年も20年もかけて、あの高江でやったように陸上自衛隊のヘリコプターで重機を運んだり、おじいちゃんおばあちゃんも600名の機動隊を持ってきて、10年間をやったりすると、これは世界、今、私が国連でスピーチしただけで、中東、含め、ドイツ、フランス、サウジアラビア、もちろん米国等々で報道がされました。そういうこと等々をよくよく考えて日米安保体制の品格を考えてくださいよということを、この訪米では必ず言ってきたところでございます。

このような形で、先ほど沖縄に対して失礼だという話をしましたけども、そういうことを堂々とやるような国を相手に沖縄県は戦っているんだということを、おそらくは今回の私の訪米で県民は気づいたのだと思っております。

私の決意も却って強くなってきております。私は沖縄県民もこのような実情等を見る中で、あの27年間の米軍の施政権下から抜け出して復帰してもこのような状況というものを県民が理解をする中から、この問題にどう向き合うかということは、私は、将来に向かってあの建白書の、オール沖縄で、瞬間的ではありましたが、全県民がまとまってその実績の中から出てくるこれからの沖縄の方向性というのは必ずもっと力強くなっていくものだということの中に、この問題をですね私の知事の立場から考えていきたいと思っております。